

3 自然と人間を共に大切にするまち

理念(最上位の目標)＝総合計画基本構想の「めざすべきまちの姿」の評価

◇市の評価

総括コメント	評価
「2. 廃棄物による環境負荷の少ないまち」、「4. 暮らしと景観に配慮したまち」の一部事業にb評価(個別事情を踏まえれば概ね順調であるとみなせる。)が存在するため、全体の評価としてはB評価とした。	B

◇基幹計画に位置づけられる個別計画の総括評価結果

みどりの基本計画	一般廃棄物処理基本計画	地球温暖化対策実行計画	*景観計画推進プラン	
A	B	A	B	

◇審議会・懇話会等の意見／【Check】の観点からの意見等

審議会・懇話会等総括意見

緑地保全の推進に当たっては、管理伐採による植木剪定枝の発生が予想されることから、チップ化しての再利用の検討など、廃棄物の減量化との連携を図りながら取り組まれない。

<各個別計画の評価状況についての意見>

特になし

◇審議会・懇話会等の意見／【Action】の観点からの意見等

＜計画の推進・改善に向けて意見・提案＞（今年度、来年度に向けた意見） （基幹計画の懇話会等が作成） 特になし
--

＜基幹計画の今後の展開や策定に向けて考慮・検討を要する事項＞（次期計画に向けた意見） （基幹計画の懇話会等が作成） 特になし
--

逗子市緑の基本計画

◇理念(最上位の目標)＝総合計画基本構想の「取り組みの方向」の評価

総括	評価	審議会・懇話会等の総括意見 (個別計画の懇話会等が作成)
概ね順調に進捗している。	A	目標に対し進捗通りであり順調と伺える。 意見等なし。

◇施策体系別の評価

施策体系	評価	コメント	総合評価の状況			審議会・懇話会等の意見
			(a)	(b)	(c)	
1 緑地の保全	a	概ね順調に進捗している。	3			目標に対し進捗通りであり順調と伺える。 助成事業については、提供するだけではなくその後の追跡調査も必要かと思われる。 また、提供物も逗子らしさを意識するような仕様を検討する事も必要である。
2 公園の整備・維持管理事業	a	概ね順調に進捗している。	3			目標に対し進捗通りであり順調と伺える。 意見等なし。
3						
4						

◇審議会・懇話会等の意見

＜各所管による事業進行管理表の評価状況についての意見＞

概ね順調に進捗している。

意見等なし。

＜計画を越えた連携についての意見＞

特になし。

◇審議会・懇話会等の意見／【Action】の観点からの意見等

＜事業の推進・改善に向けて意見・提案＞（今年度、来年度に向けた意見）

緑化推進事業の現物支給について、支給物の逗子らしさの仕様を検討することや完了後の追跡調査の実施が必要である。

＜個別計画の今後の展開や策定に向けて考慮・検討を要する事項＞（次期計画に向けた意見）

特になし。

該当計画なし【逗子市環境基本計画】

◇理念(最上位の目標)＝総合計画基本構想の「取り組みの方向」の評価

総括	評価	審議会・懇話会等の総括意見 (個別計画の懇話会等が作成)
概ね順調に進捗している。	A	特になし

◇施策体系別の評価

施策体系	評価	コメント	総合評価の状況			審議会・懇話会等の意見
			(a)	(b)	(c)	
1 水辺(河川・海)	a	概ね順調に進捗している。	3			特になし
2 動植物(生物多様性)	a	概ね順調に進捗している。	2			特になし
3						
4						

◇審議会・懇話会等の意見

<各所管による事業進行管理表の評価状況についての意見> 特になし
--

<計画を越えた連携についての意見> 特になし
--

◇審議会・懇話会等の意見／【Action】の観点からの意見等

<事業の推進・改善に向けて意見・提案>（今年度、来年度に向けた意見） 特になし

<個別計画の今後の展開や策定に向けて考慮・検討を要する事項>（次期計画に向けた意見） 特になし

【総合計画の体系】 3-1	第3節 自然と人間を共に大切にするまち 1 自然を大切にするまち
計画における位置付け	1 (1) 緑地の保全

事業名	緑化推進事業	○リーディング事業 ●基幹計画事業	課コード 所管名	0603 緑政課
事業概要	目的：市街地の緑を増やし、みどり豊かでうるおいのある住環境を創出する。 対象：市民 手段：シンボルツリー・生垣用樹木の配布及び、壁面緑化工事費用の一部を助成する。			
2018(平成30)年度 目標	市全域の緑被率約60％を維持する。 シンボルツリーの苗木配布数が累計30件になっている。	現状値 (25年度末)	－ (26年度末 シンボルツリー 9件)	
2015(平成27)主な事業内容	○樹木の配布 シンボルツリー・生垣用の樹木配布 ○壁面緑化工事費の一部助成			
		事業費 (予算額)	千円	

< 2015（平成27）年度 進捗管理表 >

主な事業内容 の実施結果	・シンボルツリー 16件 ・生垣助成 6件		目標達成 状 況	シンボルツリー7件の目標値 に対して16件実施。
			事業費 (実績額)	750, 546円
進捗状況 の評価	ア 予定どお りに進捗、予 定どおりに進 捗（事業完 了）	個別 事 情	社会状況の変化、 考慮すべき事情	
			計画や施策、組織を横 断する視点での取組み 状況（相乗効果の有 無）	
個別事情を 考慮した総 合評価	(a) 個別事情を踏まえれば順 調であるとみなせる。			
評価を踏ま えての取組 み(見直し)			検討・考慮を要 する新たな課題 や社会条件など	
審議会・ 懇話会等の 意見	【みどり審議会】 ・現物支給で終わらせるのではなく、その後適正に管理されているか追跡調査も必要である。 ・普及されるにつれ逗子市らしさの樹種の選定も配慮が必要になる。			

【総合計画の体系】 3-1	第3節 自然と人間を共に大切にするまち 1 自然を大切にするまち
計画における位置付け	1 (1) 緑地の保全

事業名	特別緑地保全地区指定事業	● リーディング事業	課コード	0603
		○ 基幹計画事業	所管名	緑政課
事業概要	目的：市街地を取り囲む緑豊かな樹林地を将来にわたり保全するため、樹林地を特別緑地保全地区に指定する。 対象：山林所有者 手段：特別緑地保全地区指定についての理解を求め、指定を行う。			
2018(平成30)年度 目標	特別緑地保全地区を全2地区指定している。	現状値 (25年度末)	指定されていない。	
2015(平成27)主な事業内容	○制度設計の見直し ・候補地の見直し ・管理協定や買取り制度に向けた財源確保の検討			
		事業費 (予算額)	5,815千円	

< 2015（平成27）年度 進捗管理表 >

主な事業内容 の実施結果	・山の根地区1地区指定（H26年度）		目標達成 状　　況	目標値に対して50%達成
			事業費 (実績額)	0円
進捗状況 の評価	ア　予定どお りに進捗、予 定どおりに進 捗（事業完 了）	個別 事 情	社会状況の変化、 考慮すべき事情	土地の買取り請求や管理協定を考慮した財源確保の検討
			計画や施策、組織を横 断する視点での取組み 状況（相乗効果の有 無）	
個別事情を 考慮した総 合評価	(a) 個別事情を踏まえれば順 調であるとみなせる。		追加指定に向けて、次期候補地の選定を検討した。	
評価を踏ま えての取組 み(見直し)			検討・考慮を要 する新たな課題 や社会条件など	
審議会・ 懇話会等の 意見	【みどり審議会】 特になし。			

【総合計画の体系】 3-1	第3節 自然と人間を共に大切にするまち 1 自然を大切にするまち
計画における位置付け	1 (1) 緑地の保全

事業名	歴史的風土保存地区指定事業	○ リーディング事業	課コード	0603
		● 基幹計画事業	所管名	緑政課
事業概要	目的：歴史上意義を有する遺跡等と周囲の自然環境を一体的に保存するため、名越え切通周辺の歴史的風土保存区域の重要な部分を歴史的風土特別保存地区に指定する。 対象：県、土地所有者 手段：歴史的風土保存区域について理解を求め、特別地区の指定を行う。			
2018(平成30)年度 目標	○指定に向けた取組み ・県及び鎌倉市と調整を図る。	現状値 (25年度末)	指定されていない。	
2015(平成27)主な事業内容	名越切通周辺の歴史的風土保存区域内の重要な部分が歴史的風土特別保存地区に指定されている。			
		事業費 (予算額)	2千円	

< 2015（平成27）年度 進捗管理表 >

主な事業内容 の実施結果	○指定に向けた取組み ・県及び鎌倉市と調整を図る。			目標達成 状 況	調整の中で進捗状況が遅れて いる。
				事業費 (実績額)	0円
進捗状況 の評価	イ 予定より 遅れている	個 別 事 情	社会状況の変化、 考慮すべき事情	特別地区の指定は県が行うものであり、県及び鎌倉市との調整が必要 となる。	
			計画や施策、組織を横 断する視点での取組み 状況（相乗効果の有 無）	今後も特別地区の指定に向けて取り組んでいく	
個別事情を 考慮した総 合評価	(a) 個別事情を踏まえれば順 調であるとみなせる。				
評価を踏ま えての取組 み(見直し)			検討・考慮を要 する新たな課題 や社会条件など		
審議会・ 懇話会等の 意見	【みどり審議会】 特になし。				

【総合計画の体系】 3-1	第3節 自然と人間を共に大切にするまち 1 自然を大切にするまち
計画における位置付け	1 (2) 公園の整備・維持管理事業

事業名	池子の森自然公園整備事業	☒ リーディング事業 ☐ 基幹計画事業	課コード 所管名	0603 緑政課
事業概要	目的：池子の森自然公園基本計画に基づき、安全で快適な都市公園として整備を図る。 対象：公園利用者 手段：各公園施設の実施設計をし、公園施設を整備する。			
2018(平成30)年度 目標	池子の森自然公園の整備が完了している。	現状値 (25年度末)	基本計画を策定した	
2015(平成27)主な事業内容	池子の森自然公園整備事業（緑政課分） ・自動スライドゲート設置工事（明許繰越） ・環境調査業務委託（明許繰越） ・建築工事（事務所兼トイレ） ・防犯カメラ設置工事 ・駐車管制設備設置工事 ・建築工事実施設計業務委託等		事業費 (予算額)	827,500千円

< 2015（平成27）年度 進捗管理表 >

主な事業内容 の実施結果	池子の森自然公園整備事業（緑政課分） ・自動スライドゲート設置工事（明許繰越） ・環境調査業務委託（明許繰越） ・建築工事（事務所兼トイレ） ・防犯カメラ設置工事 ・建築工事実施設計業務委託等			目標達成 状　　況	緑政課事業の進捗は予定通り である。
				事業費 (実績額)	68,334,330円
進捗状況 の評価	ア　予定どお りに進捗、予 定どおりに進 捗（事業完 了）	個別 事 情	社会状況の変化、 考慮すべき事情	引き続き防衛省と在日米海軍との協議、調整を実施していく	
			計画や施策、組織を横 断する視点での取組み 状況（相乗効果の有 無）		
個別事情を 考慮した総 合評価	(a) 個別事情を踏まえれば順 調であるとみなせる。				
評価を踏ま えての取組 み(見直し)				検討・考慮を要 する新たな課題 や社会条件など	
審議会・ 懇話会等の 意見	【みどり審議会】 特になし。				

【総合計画の体系】 3-1	第3節 自然と人間を共に大切にするまち 1 自然を大切にするまち
計画における位置付け	1 (2) 公園の整備・維持管理事業

事業名	都市公園整備事業	☐ リーディング事業 ☒ 基幹計画事業	課コード 所管名	0603 緑政課
事業概要	目的：安全で快適な都市公園としての整備を図る。 対象：公園利用者 手段：各公園施設の実施設計を行い、公園施設を整備する。			
2018(平成30)年度 目標	市民一人あたり都市公園面積が10平方メートルになる。	現状値 (25年度末)	15.56平方メートル	
2015(平成27)主な事業内容	適正な維持管理を実施していく ・第一運動公園維持管理事業 ・披露山公園維持管理事業 ・近隣公園維持管理事業 ・街区公園維持管理事業 ・池子の森自然公園維持管理事業 ・蘆花記念公園維持管理事業		事業費 (予算額)	54,201千円

< 2015（平成27）年度 進捗管理表 >

主な事業内容 の実施結果	適正な維持管理を実施していく ・第一運動公園維持管理事業 ・披露山公園維持管理事業 ・近隣公園維持管理事業 ・街区公園維持管理事業 ・池子の森自然公園維持管理事業 ・蘆花記念公園維持管理事業			目標達成 状 況	目標値を達成している
				事業費 (実績額)	53,544,796円
進捗状況 の評価	ア 予定どお りに進捗、予 定どおりに進 捗（事業完 了）	個別 事 情	社会状況の変化、 考慮すべき事情		
			計画や施策、組織を横 断する視点での取組み 状況（相乗効果の有 無）		
個別事情を 考慮した総 合評価	(a) 個別事情を踏まえれば順 調であるとみなせる。				
評価を踏ま えての取組 み（見直し）				検討・考慮を要 する新たな課題 や社会条件など	
審議会・ 懇話会等の 意見	【みどり審議会】 特になし。				

【総合計画の体系】 3-1	第3節 自然と人間を共に大切にするまち 1 自然を大切にするまち
計画における位置付け	1 (2) 公園の整備・維持管理事業

事業名	公園・緑地アダプト推進事業	☐ リーディング事業 ☒ 基幹計画事業		課コード 所管名	0603 緑政課
事業概要	目的：公園及び緑地において、市民協働による適正な維持管理を行う。 対象：市民 手段：里親契約を結ぶ				
2018(平成30)年度 目標	公園において里親契約を結んでいる箇所数の割合が50%以上になっている。	現状値 (25年度末)	☐ 公園アダプト 31.3% (83箇所中26箇所) ☐ 緑地アダプト 25箇所		
2015(平成27)主な事業内容	☐ アダプト活動の積極的な推進を行う。 ・公園アダプト推進事業 ・緑地アダプト推進事業				
		事業費 (予算額)	340千円		

< 2015（平成27）年度 進捗管理表 >

主な事業内容 の実施結果	○アダプト活動の積極的な推進を行う。 ・公園アダプト推進事業 ・緑地アダプト推進事業			目標達成 状 況	○公園アダプト 42.1%（83箇所中35箇所） ○緑地アダプト 27箇所
				事業費 (実績額)	264,267円
進捗状況 の評価	ア 予定どお りに進捗、予 定どおりに進 捗（事業完 了）	個別 事 情	社会状況の変化、 考慮すべき事情	既存団体の高齢化	
			計画や施策、組織を横 断する視点での取組み 状況（相乗効果の有 無）		
個別事情を 考慮した総 合評価	(a) 個別事情を踏まえれば順 調であるとみなせる。				
評価を踏ま えての取組 み(見直し)				検討・考慮を要 する新たな課題 や社会条件など	
審議会・ 懇話会等の 意見	【みどり審議会】 特になし。				

【総合計画の体系】 3-1	第3節 自然と人間を共に大切にするまち 1 自然を大切にするまち
計画における位置付け	(2 水辺(河川・海))

事業名	逗子海岸保全活用事業	● リーディング事業	課コード	0405
		○ 基幹計画事業	所管名	経済観光課
事業概要	目的：逗子海岸のあり方や保全・活用方法を検討し、ファミリービーチとして安全で快適に利用できる海岸をつくる。			
	対象：市民、海岸利用者、海水浴客、観光客			
	手段：海岸の美化（啓発、アダプトプログラムの推進、清掃等）、海水浴場の開設・運営、海浜公衆トイレの維持管理、海水浴場のあり方の検討と改善策の実施			
2018(平成30)年度 目標	逗子海岸が安全で快適なファミリービーチとして維持されており、海水浴客数が30万人を超えている。	現状値 (25年度末)	201,300人 【2014（平成26）年度実績】	
2015(平成27)主な事業内容	○海水浴場のあり方の検討と改善策の実施			
	○海岸の美化			
	○海水浴場の開設・運営			
	○海浜公衆トイレの維持管理			
		事業費 (予算額)	332,000千円	

< 2015（平成27）年度 進捗管理表 >

主な事業内容 の実施結果	○逗子海水浴場の運営に関する検討会を9回開催 ○かながわ海岸美化財団による海岸清掃を121日実施、逗子ビーチクリーン隊との逗子海岸一斉清掃を9回実施（3回中止） ○海水浴場を6月26日から8月30日の66日間開設 ○海浜公衆トイレの清掃271回及び修繕を実施			目標達成 状 況	237,200人 【2015（平成27）年度実績】
				事業費 (実績額)	37,412,005円
進捗状況 の評価	ア 予定どおりに進捗、予定どおりに進捗（事業完了）	個別事情	社会状況の変化、考慮すべき事情	特になし	
			計画や施策、組織を横断する視点での取組み状況（相乗効果の有無）	特になし	
個別事情を考慮した総合評価	(a) 個別事情を踏まえれば順調であるとみなせる。		安全で快適な海水浴場を維持したうえで、海水浴客数が増加しているため		
評価を踏まえての取組み(見直し)	特になし		検討・考慮を要する新たな課題や社会条件など	特になし	
審議会・懇話会等の意見	【環境審議会】 特になし。				

【総合計画の体系】 3-1	第3節 自然と人間を共に大切にするまち 1 自然を大切ににするまち
計画における位置付け	2 水辺（河川・海）

事業名	河川維持管理事業	○ リーディング事業	課コード	0607
		◎ 基幹計画事業	所管名	河川下水道課
事業概要	目的：周辺緑化や生態系の再生を意識した河川の整備・管理手法を推進し、多様な命をはぐくむ川とするとともに、遊歩道の舗装やベンチの設置等を通じて、誰もが楽しめる親水施設を整備し、水辺の環境を保全していくため、アダプト制度や市民、事業者との協働による一斉清掃等を通じて良好な水辺を継承していくこと。 対象：河川 手段：親水施設を整備することについて、要望・調査・検討を行う。			
2018(平成30)年度 目標	* 河川の親水施設を4箇所整備する。 * アダプトプログラムによる河川管理の箇所数が4箇所を維持している。	現状値 (25年度末)	* 親水施設 3箇所 * アダプト 4箇所	
2015(平成27)主な事業内容	* 親水施設等の設置の取り組み 県に対し、2級河川部分への親水施設等の設置要望 * アダプト活動や清掃イベントの開催			
		事業費 (予算額)	千円	

< 2015（平成27）年度 進捗管理表 >

主な事業内容 の実施結果	＊県管理の２級河川部分への親水施設等の設置について、進捗状況を把握 県による田越川親水施設整備計画説明会を開催 ＊アダプトによる河川清掃活動実施（１５回）			目標達成 状　　況	＊親水施設　３箇所 ＊アダプト　４箇所
				事業費 (実績額)	6,773,623円
進捗状況 の評価	ア　予定どおりに進捗、予定どおりに進捗（事業完了）	個別事情	社会状況の変化、考慮すべき事情	親水施設等の設置について、県への要望を行い、県は事業を計画しているところであるが、県の予算による事業であるため、市の目標に沿って事業を進めることは困難である。	
			計画や施策、組織を横断する視点での取組み状況（相乗効果の有無）		
個別事情を考慮した総合評価	(a) 個別事情を踏まえれば順調であるとみなせる。			県において、親水施設の整備が計画されているため。	
評価を踏まえての取組み(見直し)				検討・考慮を要する新たな課題や社会条件など	
審議会・懇話会等の意見	【環境審議会】 特になし。				

【総合計画の体系】 3-1	第3節 自然と人間を共に大切にするまち 1 自然を大切にするまち
計画における位置付け	2 水辺（河川・海）

事業名	水洗化普及事業	○ リーディング事業		課コード	0607
		● 基幹計画事業		所管名	河川下水道課
事業概要	目的：くみ取り便所、浄化槽を廃止し、水洗化していくことで水辺の環境や水質の保全を図る。 対象：公共下水道 手段：水洗化工事について理解を求める。				
2018(平成30)年度 目標	水洗化率が98%になっている。		現状値 (25年度末)	97.8%	
2015(平成27)主な事業内容	公共下水道への接続促進 融資の斡旋、助成制度の周知方法の検討				
				事業費 (予算額)	千円

< 2015（平成27）年度 進捗管理表 >

主な事業内容 の実施結果	公共下水道への接続促進として、未水洗家屋に対し個別に周知チラシを配布			目標達成 状 況	98.1%
	未水洗化戸数 26年度末：371戸 → 27年度末：308戸			事業費 (実績額)	179,844円
進捗状況 の評価	ア 予定どお りに進捗、予 定どおりに進 捗（事業完 了）	個別 事 情	社会状況の変化、 考慮すべき事情		
			計画や施策、組織を横 断する視点での取組み 状況（相乗効果の有 無）		
(a) 個別事情を踏まえれば順 調であるとみなせる。					
評価を踏ま えての取組 み(見直し)			検討・考慮を要 する新たな課題 や社会条件など		
審議会・ 懇話会等の 意見	【環境審議会】 特になし。				

【総合計画の体系】 3-1	第3節 自然と人間を共に大切にするまち 1 自然を大切にするまち
計画における位置付け	3 動植物（生物多様性）

事業名	自然の回廊プロジェクト推進事業	☒ リーディング事業 ☐ 基幹計画事業	課コード 所管名	0405 経済観光課
事業概要	目的：市民や逗子を訪れた人々が安らぎ、遊び、憩える場所となるように、逗子全体を自然の回廊として整備することにより、逗子の魅力を高め、多くの人々に認知、活用されるようにする。 対象：市民、来訪者 手段：市内の史跡等に、誰が見ても見やすく、知的興味が得られるような案内板や道標を設置する。回廊マップや冊子による紹介を進め、啓発イベントを開催する。			
2018(平成30)年度 目標	自然の回廊マップが作成されている。	現状値 (25年度末)	作成されていない。	
2015(平成27)主な事業内容	☐ 案内板等の設置 ☐ 自然の回廊マップの作成 ☐ 市民協働によるイベントの実施			事業費 (予算額) 11,782千円

< 2015（平成27）年度 進捗管理表 >

主な事業内容 の実施結果	○説明板を4か所、道標を2か所、案内表示を1か所、パノラママップを1か所に設置 ○自然の回廊マップを6,500部印刷 ○自然の回廊紹介ハイキングを企画（雨のため中止）			目標達成 状　　況	自然の回廊マップを作成した。
				事業費 (実績額)	1,126,202円
進捗状況 の評価	ア　予定どおりに進捗、予定どおりに進捗（事業完了）	個別事情	社会状況の変化、考慮すべき事情	特になし	
			計画や施策、組織を横断する視点での取組み状況（相乗効果の有無）	特になし	
個別事情を考慮した総合評価	(a) 個別事情を踏まえれば順調であるとみなせる。		目標どおり進捗しているため		
評価を踏まえての取組み（見直し）	特になし		検討・考慮を要する新たな課題や社会条件など	特になし	
審議会・懇話会等の意見	【環境審議会】 特になし。				

【総合計画の体系】 3-1	第3節 自然と人間を共に大切にするまち 1 自然を大切にするまち
計画における位置付け	3 動植物（生物多様性）

事業名	環境パートナーシップ推進事業	☐ リーディング事業 ☒ 基幹計画事業	課コード 所管名	0601 環境管理課
事業概要	目的：逗子市環境基本計画・行動等指針の推進、計画目標の実現のために、市民、事業者、市が主体的に、又は協働による具体的な行動を実行する。また、次世代を担う子どもたちに自然環境を保全することへの関心を高める。 対象：市民、事業者 手段：逗子市環境基本計画・行動等指針などに基づく施策の実践、活動支援を行うため、意識啓発イベント、自然観察会。			
2018(平成30)年度 目標	☐ 市民団体による自然体験学習の参加者が年に約150人になる。 ☐ 市民団体等により実施する出前授業が各学校にて行われる。		現状値 (25年度末)	自然体験学習の参加者 約100人/年 出前授業参加者 累計340人
2015(平成27)主な事業内容	☐ かんきょう連続講演会の実施 ☐ 環境月間イベントの開催 ☐ 出前授業の講師派遣 ☐ 自然観察会開催			
		事業費 (予算額)	千円	

< 2015（平成27）年度 進捗管理表 >

主な事業内容 の実施結果	○かんきょう連続講演会の実施（3回） ○環境月間イベントの開催 （環境フェスティバル6. 20・21 展示は6. 15～） ○出前授業の講師派遣（7回） 実施4校、参加者数約550人 ○自然観察会開催（3回）参加者数55人			目標達成 状 況	予定どおり実施
				事業費 (実績額)	671, 627円
進捗状況 の評価	ア 予定どおりに進捗、予定どおりに進捗（事業完了）	個別事情	社会状況の変化、考慮すべき事情	市とパートナーシップにより環境施策を進めるずしし環境会議の自立に向けた検討を進める。	
			計画や施策、組織を横断する視点での取組み状況（相乗効果の有無）	ずしし環境会議以外の環境団体、また、環境以外の分野の団体とも連携をより一層進められるよう検討する。	
個別事情を考慮した総合評価	(a) 個別事情を踏まえれば順調であるとみなせる。				
評価を踏まえての取組み(見直し)	特になし		検討・考慮を要する新たな課題や社会条件など	特になし	
審議会・懇話会等の意見	【環境審議会】 特になし。				

逗子市一般廃棄物処理基本計画

◇理念(最上位の目標)＝総合計画基本構想の「取り組みの方向」の評価

総括	評価	審議会・懇話会等の総括意見
資源循環課が主体での事業については、順調に進捗している。年度途中で、近隣自治体と共同での処理へ方針が変更となった事業については相手があり、今後双方での協議で進める必要が有る。したがって、白紙の状況からのスタートとなり、現状での進捗としては順調と判断得ざるを得ない。	B	(個別計画の懇話会等が作成) ・審議会では、様々な議論が展開されましたが、その内容を踏まえ、家庭ごみ処理有料化や事業系一般廃棄物の持込処理手数料の適正化が図られた。 ・今後、近隣市町村との協力が進められることを期待する。

◇施策体系別の評価

施策体系	評価	コメント	総合評価の状況			審議会・懇話会等の意見
			(a)	(b)	(c)	
1 発生抑制と排出抑制・再生利用の推進	a	資源再利用推進事業及び生ごみ減量化・資源化事業の各事業とも、目標に対して順調に進捗している。ただ、生ごみ減量化・資源化事業での生ごみ一括処理施設整備については、市単独での整備が進めていたが、年度途中で近隣自治体との共同処理の検討へ新たにスタートとすることとなり、順調な状況と判断できる。	2			・一般廃棄物の処理責任は、事業系も含め市にあります。逗子市は、その責任を理解したうえで着実な対策をとっていると評価できます。家庭用生ごみ処理容器的の購入助成も素晴らしいシステムですが、焦らずに一歩前に進めてください。 ・助成の実績台数は相当の数であり、市民の関心の高さがうかがえる。 ・不用品交換は、リユースを進める一つの手段です。これからも着実に進めてください。 ・地域と連携した素晴らしい取組であると考えます。 ・今後、取組が継続されるよう、利用状況について定期的に把握・評価しながら、地域の運営者と連携して適宜改善を行っていくことが必要と考えます。
2 環境負荷の低減と適正処理の推進	b	一般廃棄物処理施設整備事業では、施設整備基本構想の検討に着手されていないが、整備方針が年度途中で近隣自治体との共同整備への方針変更となり、整備に向けた検討が白紙となり、改めて整備に向けた検討を進めることとなった。したがって、進捗は順調な状況と判断できる。		1		近隣の市町村が協力分担しながら、廃棄物処理を推進することに賛成です。市民の理解が得られるよう働きかけてください。
3 ごみ処理事業の効率化の推進						
4 市民、事業者との協働						

◇審議会・懇話会等の意見

＜各所管による事業進行管理表の評価状況についての意見＞ 特になし
--

＜計画を越えた連携についての意見＞ 特になし

◇審議会・懇話会等の意見／【Action】の観点からの意見等

＜事業の推進・改善に向けて意見・提案＞（今年度、来年度に向けた意見） 特になし

＜個別計画の今後の展開や策定に向けて考慮・検討を要する事項＞（次期計画に向けた意見） 特になし

【総合計画の体系】	第3節 自然と人間を共に大切にするまち	
	3-2	2 廃棄物による環境負荷の少ないまち
計画における位置付け	1 発生抑制と排出抑制・再生利用の推進	

事業名	生ごみ減量化・資源化事業	◎ リーディング事業 ○ 基幹計画事業	課コード	0604
			所管名	資源循環課
事業概要	目的：本市の一般廃棄物の処理を安定的かつ適正に行うこと。また、本市に適合する生ごみ処理システムの確立を図り、最終的には生ごみ全量の焼却しない処理をめざす。 対象：市民等 手段：市民団体や事業者との連携により、家庭用生ごみ処理容器等の購入助成の普及拡大を図る。計画的に生ごみ一括処理施設の整備を行う。			
2018(平成30)年度 目標	・生ごみの全量資源化に向けた適正規模の施設整備に着手している。 ・家庭用生ごみ処理容器等の購入助成について、年間助成台数が500台以上である。		現状値 (25年度末)	・施設整備に向けて検討中 ・295台
2015(平成27)主な事業内容	・生ごみ一括処理施設整備の検討 ・生ごみ処理容器等購入助成事業			
		事業費 (予算額)	223,146千円	

< 2015(平成27)年度 進捗管理表 >

主な事業内容の実施結果	生ごみ処理施設の視察の実施 家庭用生ごみ処理容器の購入に対する助成		目標達成状況	施設整備に向けた検討 助成台数 518台
			事業費 (実績額)	10,142,700円
進捗状況の評価	ア 予定どおりに進捗、予定どおりに進捗(事業完了) 個別事情	社会状況の変化、考慮すべき事情	生ごみ一括処理施設整備について、葉山町との共同処理の可能性も含めて検討していく方針となった。	
		計画や施策、組織を模断する視点での取組み状況(相乗効果の有無)	共同処理により、より環境負荷の低減、財政負担の軽減等処理の効率化が図られる	
個別事情を考慮した総合評価	(a) 個別事情を踏まえれば順調であるとみなせる。		2市町での廃棄物の共同処理の可能性について検討を開始した。 助成台数が518台であった。	
評価を踏まえての取組み(見直し)	新たに共同処理に向けた取組についても検討を開始		検討・考慮を要する新たな課題や社会条件など	各市町の状況把握から新たな連携にむけた協議・検討
審議会・懇話会等の意見	・一般廃棄物の処理責任は、事業系も含め市にあります。逗子市は、その責任を理解したうえで着実な対策をとっていると評価できます。家庭用生ごみ処理容器の購入助成も素晴らしいシステムですが、焦らずに一歩前に進めてください。 ・助成の実績台数は相当の数であり、市民の関心の高さがうかがえます。			

【総合計画の体系】	第3節 自然と人間を共に大切にするまち
	2 廃棄物による環境負荷の少ないまち
3-2	
計画における位置付け	1 発生抑制と排出抑制・再生利用の推進

事業名	資源再利用推進事業	○リーディング事業 ●基幹計画事業	課コード	0604
			所管名	資源循環課
事業概要	目的：ごみを燃やさない、埋め立てないゼロ・ウェイストを目指すとともに、最終処分場のさらなる延命化に寄与する資源化促進として、市民自らが資源物の持ち込み、持ち帰りを行うことで廃棄物の削減を目指す。 対象：市民 手段：市民が、いつでも資源物の持ち込み、持ち帰りが可能な場所の設置。			
2018(平成30)年度 目標	現在の3箇所（逗子・沼間・小坪）に加え2箇所設置（池子・久木）に拡大して設置（計5箇所に設置）	現状値 (25年度末)	3箇所に設置（逗子・沼間・小坪）	
2015(平成27)主な事業内容	利用者の利便性を考慮し設置。			
		事業費 (予算額)	千円	

< 2015（平成27）年度 進捗管理表 >

主な事業内容 の実施結果	久木（久木会館及び西友逗子ハイランド店前）で開催を開始した。また、久木会館には、常設の不用品交換棚を設置し、利用者の利便性を図った。			目標達成 状 況	4箇所を設置（逗子・沼間・久木・小坪）
				事業費 (実績額)	551,000円
進捗状況 の評価	ア 予定どおりに進捗、予定どおりに進捗（事業完了）	個別事情	社会状況の変化、考慮すべき事情		
			計画や施策、組織を横断する視点での取組み状況（相乗効果の有無）		
個別事情を考慮した総合評価	(a) 個別事情を踏まえれば順調であるとみなせる。		新たに久木地区で開設したおとで計4箇所の設置となった。		
評価を踏まえての取組み(見直し)			検討・考慮を要する新たな課題や社会条件など		
審議会・懇話会等の意見	・不用品交換は、リユースを進める一つの手段です。これからも着実に進めてください。 ・地域と連携した素晴らしい取組であると考えます。 ・今後、取組が継続されるよう、利用状況について定期的に把握・評価しながら、地域の運営者と連携して適宜改善を行っていくことが必要と考えます。				

【総合計画の体系】	第3節 自然と人間を共に大切にするまち
	2 廃棄物による環境負荷の少ないまち
3-2	
計画における位置付け	2 環境負荷の低減と適正処理の推進

事業名	一般廃棄物処理施設整備事業	● リーディング事業 ○ 基幹計画事業	課コード	0604
			所管名	資源循環課
事業概要	目的：将来に向けて安全・安心で持続可能な廃棄物処理システムの確立を図る。			
	対象：一般廃棄物処理施設 手段：環境クリーンセンターの焼却施設などのごみ処理関連施設全体の中長期的整備計画を策定し、再整備を行う。			
2018(平成30)年度 目標	一般廃棄物処理施設整備計画が策定され、一部着手している。		現状値 (25年度末)	再整備の方向性を検討する
2015(平成27)主な事業内容	ごみ処理施設整備基本構想の検討			
			事業費 (予算額)	3,960,000千円

< 2015（平成27）年度 進捗管理表 >

主な事業内容 の実施結果	逗子市・葉山町との共同処理の可能性について検討			目標達成 状　　況	葉山町との共同処理の可能性 も含めて検討していく方針と なった。
				事業費 (実績額)	円
進捗状況 の評価	ウ　着手でき ていない	個別 事 情	社会状況の変化、 考慮すべき事情	処理施設整備について、葉山町との共同処理の可能性も含めてへの検討へ、施設整備計画方針が変更	
			計画や施策、組織を横断する視点での取組み状況（相乗効果の有無）	共同処理により、環境負荷の低減、財政負担の軽減等処理の効率化が図られる	
個別事情を 考慮した総合評価	(b)　個別事情を踏まえれば概ね順調であるとみなせる。			2市町での廃棄物の共同処処理の可能性について検討を開始した。	
評価を踏まえての取組み(見直し)				検討・考慮を要する新たな課題や社会条件など	
審議会・懇話会等の意見	・近隣の市町村が協力分担しながら、廃棄物処理を推進することに賛成です。市民の理解が得られるよう働きかけてください。				

* 逗子市地球温暖化対策実行計画 《未策定》

◇理念(最上位の目標)＝総合計画基本構想の「取り組みの方向」の評価

総括	評価	審議会・懇話会等の総括意見 (個別計画の懇話会等が作成)
概ね順調に進捗している。	A	特になし

◇施策体系別の評価

施策体系	評価	コメント	総合評価の状況			審議会・懇話会等の意見
			(a)	(b)	(c)	
1	a	概ね順調に進捗している。	1			特になし
2						
3						
4						

◇審議会・懇話会等の意見

<各所管による事業進行管理表の評価状況についての意見> 特になし
--

<計画を越えた連携についての意見> 特になし
--

◇審議会・懇話会等の意見／【Action】の観点からの意見等

<事業の推進・改善に向けて意見・提案>（今年度、来年度に向けた意見） 特になし

<個別計画の今後の展開や策定に向けて考慮・検討を要する事項>（次期計画に向けた意見） 特になし

【総合計画の体系】 3-3	第3節 自然と人間を共に大切にするまち 3 温室効果ガス排出の少ないまち
計画における位置付け	なし（平成28年度策定予定）

事業名	スマートエネルギー普及促進事業（温室効果ガス削減事業）	☒ リーディング事業 ☐ 基幹計画事業	課コード 所管名	0601 環境管理課
事業概要	目的：「第二次逗子市環境基本計画」に基づき、温室効果ガス排出量削減に向けた取り組みを進める。 対象：市民等 手段：省エネルギー型設備、再生可能エネルギー設備等の温室効果ガス排出量の少ない設備の導入に係る費用に対し補助金を交付する。			
2018(平成30)年度 目標	☐ 「第二次逗子市環境基本計画」に基づく新たなスマートエネルギー設備等導入支援の補助金制度が運用されている。	現状値 (25年度末)	計画を策定していない	
2015(平成27)主な事業内容	☐ 住宅用スマートエネルギー設備等導入費補助金の運用 ☐ 地球温暖化対策実行計画区域施策編策定に係る基本方針等の検討			事業費 (予算額) 21,600千円

< 2015（平成27）年度 進捗管理表 >

主な事業内容 の実施結果	○住宅用スマートエネルギー設備等導入費補助金 補助金 1,330,000円 補助件数 25件 (内訳) HEMS機器 8件 エネファーム 21件 リチウムイオン蓄電池 4件			目標達成 状 況	予定どおり実施
	○地球温暖化対策実行計画区域施策編の基本方針の確認			事業費 (実績額)	3,083,363円
進捗状況 の評価	ア 予定どお りに進捗、予 定どおりに進 捗(事業完 了)	個別 事 情	社会状況の変化、 考慮すべき事情	27年7月、国が新たな温室効果ガス削減目標(2030年度に2013年度比で 26%削減)を決定	
			計画や施策、組織を横 断する視点での取組み 状況(相乗効果の有 無)	特になし	
個別事情を 考慮した総 合評価	(a) 個別事情を踏まえれば順 調であるとみなせる。				
評価を踏ま えての取組 み(見直し)	特になし		検討・考慮を要 する新たな課題 や社会条件など	28年度中に県の地球温暖化対策計画の改定 が予定されている。	
審議会・ 懇話会等の 意見	【環境審議会】 特になし。				

■個別計画進行管理総括表

3-4

* 景観計画推進プラン 《未策定》

◇理念(最上位の目標)＝総合計画基本構想の「取り組みの方向」の評価

総括	評価	審議会・懇話会等の総括意見 (個別計画の懇話会等が作成)
概ね順調に進捗している。	A	特になし

◇施策体系別の評価

施策体系	評価	コメント	総合評価の状況			審議会・懇話会等の意見
			(a)	(b)	(c)	
1 良好な景観	a	概ね順調に進捗している。	2			特になし
2						
3						
4						

◇審議会・懇話会等の意見

＜各所管による事業進行管理表の評価状況についての意見＞ 特になし
--

＜計画を越えた連携についての意見＞ 特になし

◇審議会・懇話会等の意見／【Action】の観点からの意見等

＜事業の推進・改善に向けて意見・提案＞（今年度、来年度に向けた意見） 特になし

＜個別計画の今後の展開や策定に向けて考慮・検討を要する事項＞（次期計画に向けた意見） 特になし

該当計画なし【逗子市環境基本計画】

◇理念(最上位の目標)＝総合計画基本構想の「取り組みの方向」の評価

総括	評価	審議会・懇話会等の総括意見 (個別計画の懇話会等が作成)
概ね順調に進捗している。	B	特になし

◇施策体系別の評価

施策体系	評価	コメント	総合評価の状況			審議会・懇話会等の意見
			(a)	(b)	(c)	
1 暮らしのための基盤整備	b	・逗子ハイランド地区の歩道のインターロッキングブロック化が目標である平成30年度までに終了予定である。 ・平成30年度までに市道の狭あい道路の割合が65%以下になっている。 ・平成30年度までに急傾斜地崩壊危険区域の整備済み箇所を60箇所とするのが目標であるが、(H28.6.7現在)区域指定61箇所(59箇所整備済み。2箇所未着手。)となっている。		3		特になし
2 生活環境の諸問題	a	概ね予定通りに進捗している		3		特になし
3						
4						

◇審議会・懇話会等の意見

＜各所管による事業進行管理表の評価状況についての意見＞ 特になし
--

＜計画を越えた連携についての意見＞ 特になし

◇審議会・懇話会等の意見／【Action】の観点からの意見等

＜事業の推進・改善に向けて意見・提案＞（今年度、来年度に向けた意見） 特になし

＜個別計画の今後の展開や策定に向けて考慮・検討を要する事項＞（次期計画に向けた意見） 特になし

【総合計画の体系】 3-4	第3節 自然と人間を共に大切にするまち 4 暮らしと景観に配慮したまち
計画における位置付け	1 良好な景観

事業名	景観のまちづくり推進事業	☒ リーディング事業 ☐ 基幹計画事業	課コード 所管名	0602 まちづくり課
事業概要	目的：逗子の特性が生かされた良好な景観を守り、育て、つくり、将来に継承する。 対象：市民及び事業者 手段：逗子市景観条例と逗子市景観計画に定める景観形成重点地区について、各地域の特性をいかしたガイドライン及び景観条例の運用による景観のまちづくりの推進を図る。景観デザインコードを景観誘導のツールとして活用する。景観フォトコンテスト等のイベントによる景観資産の登録など、景観についての啓発活動を行い、多くの市民の景観についての意識を高める。			
2018(平成30)年度 目標	景観形成重点地区4地区目を決定している。	現状値 (25年度末)	重点地区3地区指定済	
2015(平成27)主な事業内容	①景観デザインコードの活用 ②（仮称）景観計画推進プランの策定			事業費 (予算額) 20,156千円

< 2015（平成27）年度 進捗管理表 >

主な事業内容 の実施結果	①は、景観まち歩き、逗子高校総合学習の教材として、また、窓口等で市民や事業者等に配布し、普及啓発を行っている。			目標達成 状 況	予定どおり進捗
				事業費 (実績額)	2, 273, 401 円
進捗状況 の評価	ア 予定どおりに進捗、予定どおりに進捗（事業完了）	個別事情	社会状況の変化、考慮すべき事情	特になし。	
			計画や施策、組織を横断する視点での取組み状況（相乗効果の有無）	②については、他部署に景観に関連する取組み調査を行った結果、景観意識が芽生えた。	
個別事情を考慮した総合評価	(a) 個別事情を踏まえれば順調であるとみなせる。			平成27年度 of 取組目標に対しては予定通りに進行しているため。	
評価を踏まえての取組み(見直し)	特になし。			検討・考慮を要する新たな課題や社会条件など	特になし。
審議会・懇話会等の意見	【環境審議会】 特になし。				

【総合計画の体系】	第3節 自然と人間を共に大切にするまち
	4 暮らしと景観に配慮したまち
計画における位置付け	1 良好な景観

事業名	緑化推進事業	○ リーディング事業	課コード	0603
		◎ 基幹計画事業	所管名	緑政課
事業概要	目的：市街地の緑を増やし、みどり豊かでうるおいのある住環境を創出する。 対象：市民 手段：シンボルツリー・生垣用樹木の配布及び、壁面緑化工事費用の一部を助成する。			
2018(平成30) 年度 目標	市全域の緑被率約60％を維持する。 シンボルツリーの苗木配布数が累計30件になっている。	現状値 (25年度末)	－ (26年度末 シンボルツリー 9件)	
2015(平成27) 主な事業内容	○樹木の配布 シンボルツリー・生垣用の樹木配布 ○壁面緑化工事費の一部助成			
		事業費 (予算額)	818千円	

< 2015（平成27）年度 進捗管理表 >

主な事業内容 の実施結果	・シンボルツリー 16件 ・生垣助成 6件		目標達成 状 況	シンボルツリー7件の目標値 に対して16件実施。
			事業費 (実績額)	750, 546円
進捗状況 の評価	ア 予定どお りに進捗、予 定どおりに進 捗（事業完 了）	個別 事 情	社会状況の変化、 考慮すべき事情	
			計画や施策、組織を横 断する視点での取組み 状況（相乗効果の有 無）	
個別事情を 考慮した総 合評価	(a) 個別事情を踏まえれば順 調であるとみなせる。			
評価を踏ま えての取組 み(見直し)			検討・考慮を要 する新たな課題 や社会条件など	
審議会・ 懇話会等の 意見	みどり審議会 ・現物支給で終わらせるのではなく、その後適正に管理されているか追跡調査も必要である。 ・普及されるにつれ返子市らしさの樹種の選定も配慮が必要になる。			

【総合計画の体系】 3-4	第3節 自然と人間を共に大切にするまち 4 暮らしと景観に配慮したまち
計画における位置付け	2 暮らしのための基盤整備

事業名	やさしい道づくり事業	☐ リーディング事業 ☒ 基幹計画事業	課コード 所管名	0606 都市整備課
事業概要	目的：歩行者にとって安全で快適な歩道空間の創出を進める 対象：歩道利用者 手段：逗子市が管理する歩道の構造を計画的にインターロッキングブロック等にする			
2018(平成30)年度目標	・逗子ハイランド地区の歩道のインターロッキングブロック化 L=5052m ・逗子市交通バリアフリー基本構想に基づく市内道路の整備 13箇所	現状値 (25年度末)	・歩道のインターロッキングブロック化 L=3427m ・バリアフリー基本構想に基づく道路整備箇所 13箇所	
2015(平成27)主な事業内容	・逗子ハイランド地区の歩道のインターロッキングブロック化 L=488.25m (H27年度までの合計 L=4233.55) ・逗子市交通バリアフリー基本構想に基づく市内道路の整備 13箇所		事業費 (予算額)	千円

< 2015（平成27）年度 進捗管理表 >

主な事業内容 の実施結果	・逗子ハイランド地区の歩道のインターロッキングブロッ ク化 H27年度までの合計 L=4233.55m ・逗子市交通バリアフリー基本構想に基づく市内道路の整 備 13箇所			目標達成 状 況	
				事業費 (実績額)	14,649,120円
進捗状況 の評価	イ 予定より 遅れている	個別 事情	社会状況の変化, 考慮すべき事情	特になし	
			計画や施策、組織を横 断する視点での取組み 状況（相乗効果の有 無）	特になし	
個別事情を 考慮した総 合評価	(b) 個別事情を踏まえれば概 ね順調であるとみなせる。			特になし	
評価を踏ま えての取組 み(見直し)	特になし		検討・考慮を要 する新たな課題 や社会条件など	特になし	
審議会・ 懇話会等の 意見	【環境審議会】 特になし。				

【総合計画の体系】	第3節 自然と人間を共に大切にするまち
	4 暮らしと景観に配慮したまち
3-4	
計画における位置付け	2 暮らしのための基盤整備

事業名	狭あい道路整備事業	○ リーディング事業	課コード	0606
		◎ 基幹計画事業	所管名	都市整備課
事業概要	目的：良好な住環境や災害時の避難路を確保し、生活環境の向上を図る。			
	対象：道路幅員4m未満の指導 手段：手段：家屋の新築等に伴う道路後退部を寄付により拡幅していく。			
2018(平成30)年度 目標	・市道の狭あい道路の割合が、65パーセント以下（109.278km）になっている。（基準延長：168.121km）	現状値 (25年度末)	狭あい道路の延長 110.294km (65.60%)	
2015(平成27)主な事業内容	・市道との境界確定にかかる測量委託を行う。 ・寄付のあった道路後退部分に係る物件の補償を行う。			
		事業費 (予算額)	千円	

< 2015（平成27）年度 進捗管理表 >

主な事業内容 の実施結果	建築基準法による道路後退部分を市道として寄付を受けるための測量及び境界確定		目標達成 状 況	狭あい道路の延長 110.255km (65.58%)
			事業費 (実績額)	4,993,170円
進捗状況 の評価	イ 予定より 遅れている	個別 事 情	社会状況の変化、 考慮すべき事情	土地の寄付が前提のため、建築等による土地利用が伴わないと寄付を受けることが難しい。また、狭あい道路の両端が拡幅整備されないと事業としては完結しない。
			計画や施策、組織を横断する視点での取組み状況（相乗効果の有無）	特になし
個別事情を 考慮した総合評価	(b) 個別事情を踏まえれば概ね順調であるとみなせる。			
評価を踏まえての取組み(見直し)	特になし		検討・考慮を要する新たな課題や社会条件など	特になし
審議会・懇話会等の意見	【環境審議会】 特になし。			

【総合計画の体系】 3-4	第3節 自然と人間を共に大切にするまち 4 暮らしと景観に配慮したまち
計画における位置付け	2 暮らしのための基盤整備

事業名	急傾斜地崩壊対策事業	○ リーディング事業	課コード	0606
		● 基幹計画事業	所管名	都市整備課
事業概要	目的：急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律に基づき、がけ崩れ防止施設の整備を進める。 市民の生命財産を守る。 対象：逗子市内の急傾斜地崩壊危険区域指定基準に該当する公有地及び民有地。 手段：関係機関と連携し、急傾斜地の区域指定及び整備を進める。			
2018(平成30) 年度 目標	急傾斜地崩壊危険区域の整備済み箇所を60箇所とする。（H28.6.7現在）区域指定61箇所（59箇所整備済み。2箇所未着手。）	現状値 (25年度末)	59箇所整備済み	
2015(平成27) 主な事業内容	区域指定61箇所（59箇所整備済み。2箇所未着手。）と なっている。			
		事業費 (予算額)	千円	

< 2015(平成27)年度 進捗管理表 >

主な事業内容 の実施結果	区域指定61箇所（59箇所整備済み。2箇所未着手。）と なっている。			目標達成 状 況	59箇所整備済み
				事業費 (実績額)	50, 004, 659円
進捗状況 の評価	イ 予定より 遅れている	個別 事情	・住民による指定要望 ・市の意見等により神奈川県が指定 ・神奈川県による工事		
		計画や施策、組織を横断する視点での取組み状況（相乗効果の有無）	神奈川県との連携により区域指定、工事施工となる。		
個別事情を 考慮した総 合評価	(b) 個別事情を踏まえれば概ね順調であるとみなせる。		特になし		
評価を踏ま えての取組 み(見直し)	特になし		検討・考慮を要する新たな課題や社会条件など	特になし	
審議会・ 懇話会等の 意見	【環境審議会】 特になし。				

【総合計画の体系】 3-4	第3節 自然と人間を共に大切にするまち 4 暮らしと景観に配慮したまち
計画における位置付け	3 生活環境の諸問題

事業名	公害防止啓発事業	☐ リーディング事業 ☒ 基幹計画事業	課コード 所管名	0401 生活安全課
事業概要	目的：公害のない、良好な住環境の形成 対象：市民等 手段：啓発活動			
2018(平成30) 年度 目標	関係法令の基準を下回っている	現状値 (25年度末)	関係法令の基準を下 回っている	
2015(平成27) 主な事業内容	☐ 光化学注意報等の発令時の対応 ☐ 深夜花火禁止条例に係る啓発等 ☐ 公害防止のための啓発活動			
		事業費 (予算額)	千円	

< 2015（平成27）年度 進捗管理表 >

主な事業内容の実施結果	☐ 光化学注意報等の発令時の対応 ・ 県実施伝達訓練 1 回 ・ 注意報 3 回、予報18回 ☐ 深夜花火禁止条例に係る啓発等 ・ 街頭啓発 1 日（逗子駅前） ・ 警備委託10日間（逗子海岸・小坪海浜公園・小坪飯島公園）		目標達成状況 事業費 (実績額)	関係法令の基準を下回っている 369, 108 円
進捗状況の評価	ア 予定どおりに進捗、予定どおりに進捗（事業完了）	個別事情 社会状況の変化、考慮すべき事情 計画や施策、組織を横断する視点での取組み状況（相乗効果の有無）	特になし 特になし	
個別事情を考慮した総合評価	(a) 個別事情を踏まえれば順調であるとみなせる。		関係法令の基準を下回っている	
評価を踏まえての取組み(見直し)	特になし		検討・考慮を要する新たな課題や社会条件など	特になし
審議会・懇話会等の意見	【環境審議会】 特になし。			

【総合計画の体系】	第3節 自然と人間を共に大切にするまち
3-4	4 暮らしと景観に配慮したまち
計画における位置付け	3 生活環境の諸問題

事業名	公害調査測定事業	○リーディング事業 ◎基幹計画事業	課コード	0401
			所管名	生活安全課
事業概要	目的：公害のない、良好な生活環境の形成 対象：公害の発生源 手段：届出の受付、立入・測定等の調査、自動車騒音常時監視業務			
2018(平成30)年度 目標	関係法令の基準を下回っている		現状値 (25年度末)	関係法令の基準を下回っている
2015(平成27)主な事業内容	○自動車騒音常時監視業務（騒音規制法の規定による事務） ○公害発生時の調査・改善 ○公害法規に係る許認可事務			
		事業費 (予算額)	千円	

< 2015（平成27）年度 進捗管理表 >

主な事業内容 の実施結果	○自動車騒音常時監視業務（毎年実施） ○指定事業所等立入検査：13件 ○公害事案の処理：27件 ○公害法規に係る許認可事務（特定建設作業実施届） ・騒音規制法に基づく届出：21件 ・振動規制法に基づく届出：8件			目標達成 状 況	関係法令の基準を下回ってい る
				事業費 （実績額）	730,316円
進捗状況 の評価	ア 予定どお りに進捗、予 定どおりに進 捗（事業完 了）	個別事 情	社会状況の変化、 考慮すべき事情	特になし	
			計画や施策、組織を横 断する視点での取組み 状況（相乗効果の有 無）	特になし	
個別事情を 考慮した総 合評価	(a) 個別事情を踏まえれば順 調であるとみなせる。		関係法令の基準を下回っている		
評価を踏ま えての取組 み（見直し）	特になし		検討・考慮を要 する新たな課題 や社会条件など	特になし	
審議会・ 懇話会等の 意見	【環境審議会】 特になし。				

【総合計画の体系】 3-4	第3節 自然と人間を共に大切にするまち 4 暮らしと景観に配慮したまち
計画における位置付け	(3 生活環境の諸問題)

事業名	歩行者と自転車を優先するまち推進事業	☒ リーディング事業 ☐ 基幹計画事業	課コード	0601
			所管名	環境管理課
事業概要	目的：安全で快適な歩行空間を創出する。適切な自転車利用ができる環境づくり。公共交通アクセス手段の向上。自動車に頼りすぎない仕組みづくりの実現。 対象：歩行者、自転車、公共交通、自動車など市内の道路を利用する者及び市民、警察、行政、商店会、交通事業者などの関係機関等 手段：歩行空間における支障物の解消、歩行者優先の周知・啓発活動、楽しんで歩ける環境づくり。自転車利用環境の向上、ルール・マナーの効果的な周知と啓発、自転車を楽しむ風土づくり。公共交通の利用促進。車の利用方法の見直し。地域主体のコミュニティバス等の導入に係る研究及び運行に向けた支援。			
2018(平成30)年度 目標	限られた道路空間における、歩行者・自転車・自動車の共存方法の具体的な方策が示されている。	現状値 (25年度末)	アクションプランを策定した。	
2015(平成27)主な事業内容	○JR逗子駅前周辺地区重点プログラムの実施 ○自転車利用のルール、マナーの徹底した周知 ○歩行者と自転車のまちづくりニュース全戸配布 ○カーフリーデー*の実施（共催） ○地域主体のコミュニティバス等の研究・導入手引きの検討		事業費 (予算額)	11,536千円

< 2015（平成27）年度 進捗管理表 >

主な事業内容 の実施結果	自転車利用のルール、マナー教室の交通所管課と開催（1回） 周知ステッカー配布（811枚）、ポスター掲示（22枚） 歩行者自転車WSの開催（4回） 歩行者と自転車のまちづくりニュース全戸配布(2回) 平成28年カーフリーデーの実施に向けた検討 コミュニティバスの研究の一環として横浜市視察			目標達成 状況	カーフリーデー導入は平成28 年度からとし、目標達成に向 けた準備を実施した。
				事業費 (実績額)	
進捗状況 の評価	ア 予定どお りに進捗、予 定どおりに進 捗（事業完 了）	個別事 事情	社会状況の変化、 考慮すべき事情	特になし	
			計画や施策、組織を横 断する視点での取組み 状況（相乗効果の有 無）	地元商店街や交通事業者、駅前利用者の理解を踏まえ、カーフリー デーイベントをきっかけとした駅前交通政策の検討を進め、今後は交 通弱者等との連携を進めていく。	
個別事情を 考慮した総 合評価	(a) 個別事情を踏まえれば順 調であるとみなせる。		カーフリーデー実施について平成28年度実施予定であるため。		
評価を踏ま えての取組 み(見直し)	特になし		検討・考慮を要 する新たな課題 や社会条件など	歩行者・自転車・自動車の共存方法の具体的な方策検 討にあたり、地元商店街や交通事業者、駅前利用者等 の理解を得る。	
審議会・ 懇話会等の 意見	特になし				